

提案に至る背景と実証実験の目的

『SDGsアクションプラン』や『まち・ひと・しごと創生総合戦略』においてSDGsを原動力とした地方創生が掲げられ、地方自治体は地域に根差した企業や住民の理解・相互協力によるSDGsを軸とした地域活性化、そしてSDGs推進への対応が求められている。他方、SDGsという“ものさし”を用いた各種取り組み・事業の評価・進捗管理、ステークホルダーの理解促進、自身の課題・優位性や他自治体の取組状況の把握等、地方自治体が抱える課題は多岐に渡る。本共同研究では、上記課題解決に向けた実践ツールとして、自治体が活用できるSDGs評価ツールを開発することを目的とする。

実証実験(共同研究)の概要

評価ツールの共同開発: つくば市との協議を通じて自治体が直面する課題やニーズを把握・整理する。また、同市からのツールコンセプト・評価方法等に係るインプットを踏まえ、ツールβ版を開発する。

実証実験を通じた評価ツールの改良: 開発したツールβ版を用いてつくば市役所内で実証実験を行い、ツールの有効性や実用性の検証・改良を図る。

実施期間

2021年6月16日～2022年3月31日

場所

つくば市役所

ツール開発にあたり、つくば市を含めたSDGs未来都市に選定された自治体やその他SDGsに先進的な活動を行う自治体の取り組み、国内外のSDGsに係る評価の動向等を参考に評価手法を検討する。また、地方創生SDGs官民連携プラットフォームで分科会での活動等、内閣府等の官公庁、大学等の研究機関、民間企業、自治体等と幅広く連携・意見交換を行い、信頼性・有効性の高い評価手法を検討する。



検証したい内容

地方自治体のSDGsに係る取り組みの評価は国内外で関心が高く、議論が重ねられているものの、現時点で評価手法は確立していない。本共同研究では、国内外の動向の把握、様々な関係者との連携・意見交換を通じて、自治体が独自の事業・取組をSDGsを軸にプロセス評価できるツールを開発する。

市が行う支援内容

政策イノベーション部持続可能都市戦略室を窓口として設置／有効性の高いツール開発に向け、コンセプトや評価方法等へのアドバイス、実証実験

期待される効果・実現する未来社会

本共同研究において評価ツールβ版の開発・検証を実施後は、着実な社会実装のために、更に複数の自治体をパートナーに実証実験を行う。多くのステークホルダーの参画を通して、ツールの検証と改良を重ねることで、より中立性・信頼性の高い評価項目で自治体が活用しやすいツールの開発を目指す。ツールを導入する自治体にとっては、自治体のSDGsに資する取り組みを時間的・人的負担を抑えて継続的に評価でき、SDGs活動に係る課題や優位性を把握し、今後の事業展開の検討材料とすることができる。また、住民や事業者に対して、自治体の取り組み状況をチャートやスコア等により見える化することで、SDGsの普及・理解促進、SDGsを起点とした事業機会の拡大が期待できる。

つくば市との共同研究
ツールβ版開発・実証実験

他自治体での実証実験

本格運用開始